

一般社団法人 日本医療薬学会
平成 21 年度 第2回定例理事会 議事録

一. 開催日時：平成 21 年 3 月 27 日（金） 14 時 30 分～17 時 00 分

二. 開催場所：京都ガーデンホテル会議室

三. 出席者

会 頭：北田光一

副会頭：鈴木洋史、山田安彦

理 事：東和夫、井関健、乾賢一、大石了三、大森栄、奥田真弘、谷川原祐介

林昌洋、樋口駿、平井みどり、堀内龍也、望月眞弓、山田勝士、山本信夫

監 事：内野克喜、黒田和夫

事務局：安岡俊明、阿部恵美、根岸正和

四. 議長：北田光一

五. 会議の成立

定刻において、議長より開会が宣言され、本理事会は理事 17 名の出席があり、定款第 38 条に定める定足数を満たしており、適法に成立している旨報告された。

六. 議事の経過の要領及びその結果

1. 平成 21 年度第 1 回定例理事議事録確認について

議長より、議事録について確認の上、追加訂正があれば事務局までお申し出いただくよう依頼があった。

2. 協議事項

1) 専門薬剤師制度移管の検討依頼について

議長より、資料に基づき、社団法人日本病院薬剤師会（日病薬）会長より専門薬剤師制度を医療法で定める広告可能な制度にするため日病薬から本会に制度移管の検討依頼が行われたことが説明され、移管に関して今後具体的に検討を進めるか否か協議が行われ、山本理事を除く出席理事が賛成し承認された。山本理事は採決を留保した。

関連する議題として、谷川原理事より、資料に基づきがん専門薬剤師育成小委員会

の活動及び広告可能な医療従事者の専門性資格の要件について報告が行われた。

2) 診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業への派遣委員について

議長より、資料に基づき、診療行為に関連した死亡の調査分析モデル事業への本会の参画決定の経緯と派遣委員を選出する必要について説明があり、①茨城地区は幸田幸直評議員、②東京地区は林理事、③新潟地区は佐藤博評議員、④兵庫地区は平井理事を窓口協力薬剤師として派遣することについて提案され、満場一致で承認された。

なお、当事業は 10 地区で実施されているため、以後全地区の委員を選出する予定である。

3) 法人第 1 期事業報告について

大森理事より、資料に基づき、第 1 期（平成 20 年 12 月 1 日～12 月 31 日）の事業計画について説明があり、協議の結果満場一致で原案通り承認された。

4) 法人第 1 期計算書類について

大石理事より、資料に基づき、第 1 期（平成 20 年 12 月 1 日～12 月 31 日）の計算書類について説明があり、協議の結果満場一致で原案通り承認された。

5) 法人第 1 期監査報告について

黒田監事より、資料に基づき、第 1 期（平成 20 年 12 月 1 日～12 月 31 日）の監査報告について説明があり、協議の結果満場一致で原案通り承認された。

6) 代議員選出方法について

山田安彦副会長より、資料に基づき、第 1 期代議員（任期：平成 21 年 9 月～平成 23 年 3 月）の選出方法について説明があり、協議が行われた。

具体的には、①本会は現在移行期であるため、今回の選出方法は第 1 期の代議員に限定し、第 2 期以降の選出方法は再度作成すること、②代議員の人数は実質的な議論の確保のため評議員に準じた数にすること、③代議員の所属については評議員の構成を目安に区分を設けること、④選挙は省力化した形で行うこと、を骨子とし、第 1 期の規程及び様式案について協議された。

協議の結果、学会の現状及び制度を精査した上で判断することが妥当であるとし、規程及び様式案を次回理事会で再度協議し決定することとなった。

7) 指導薬剤師の平成 20 年度未納退会者の特別救済について

山田勝士理事より、資料に基づき、平成 20 年度会費未納のため指導薬剤師・研修施設の資格が取り消されることになった正会員 1 名について、本人から平成 20 年度

会費の追納と指導薬剤師・研修施設の資格復活を要望されていることが説明され、その扱いについて協議された。

協議の結果、平成 20 年度会費相当額と事務手数料の合計額二万円を徴収することで資格を復活することが承認され、以後同様の事例が無いように指導薬剤師認定者の退会については会費未納に加え退会届の提出も求めることが事務局に指示された。

8) 平成 21 年度公開シンポジウム開催について

林理事より、資料に基づき、平成 21 年度公開シンポジウムのテーマ（①医療薬学会が目指す専門薬剤師像、②医療現場の疑問を形にする、③育薬に必要な医療薬学の心と技、④高齢者医療を支える医療薬学、⑤医療薬学アシステッド・セルフメディケーション）及び開催予定地（宮城県、愛媛県、その他二県）について説明があり、満場一致で承認された。

9) 法人化後の本会の運営を検討する小委員会について

山田安彦副会頭より、資料に基づき、法人化後の本会の運営を検討する小委員会の委員構成及び委員会検討事項案について説明があり、協議の結果、原案の委員に加えて乾理事及び内野監事を事務局部門に精通した委員として追加することが本人の承諾を得て提案され、本委員会の委員長を大森理事が務めることと合わせて満場一致で承認された。

10) 「医療薬学」第 36 巻発行契約について

山田安彦副会頭より、資料に基づき、「医療薬学」第 36 巻発行契約について、①複数業者に見積もりを取り比較したところ、薬事日報社が一番経済的であり、②薬事日報社との契約においては、雑誌を構成する内訳を検討することで経費削減を行うことができることが説明され、協議が行われた。

協議の結果、①薬事日報社に第 36 巻の発行契約を依頼すること、②雑誌を構成する内訳については編集委員会（4 月 15 日開催予定）での議論を参考にし、次回理事会で協議し決定することが満場一致で承認された。

11) 後援依頼（3 社）について

議長より、資料に基づき、後援依頼（①第 3 回次世代を担う若手薬剤師医療薬科学シンポジウム：主催日本薬学会医療薬科学部会、②2009 年度朝日・中外がん専門薬剤師セミナー：主催朝日新聞社・中外製薬株式会社、③第 7 回オンコロジーセミナー：主催がん医療研修機構）について説明があり、後援することが満場一致で承認された。

3. 報告事項

1) 第1回定時社員総会実施方法について

議長より、資料に基づき、本理事会閉会后引き続き社員総会を行うことが報告され、進行方法等が確認された。

2) 第19回日本医療薬学会年会準備報告

佐々木年会長より、資料に基づき、第19回年会について①13会場で実施する予定であること、②ランチョンセミナー・シンポジウム・特別講演等のプログラムが決定しつつあること、③事前参加・演題登録がホームページ上から行える状態であること、④会議関係は従来通り初日に総会・二日目に評議員会（臨時社員総会）の会場を用意してあること等の準備状況が報告された。

3) JSPHCS/BMKK プログラム海外派遣事業の派遣者について

大石理事より、資料に基づき、平成21年度がん薬物療法海外派遣研修員に、岩本卓也正会員（三重大学医学部附属病院薬剤部）、河添仁正会員（愛媛大学医学部附属病院薬剤部）、佐藤淳也正会員（弘前大学医学部附属病院薬剤部）、吉村知哲正会員（大垣市民病院薬剤部）が選考されたことが報告され、派遣団長について確認を行ったところ、日程の関係で鈴木副会頭から谷川原理事に変更になることが提案され、満場一致で承認された。

4) 「医療薬学」投稿論文数・掲載論文数について

奥田理事より、「医療薬学」の投稿論文数・掲載論文数並びに掲載論文数の増加のため総説原稿等の依頼を検討していることが報告された。

5) 日本医科学会総会学術プログラムへの協力の件

議長より、第28回日本医学会総会（2011年、東京開催予定）において実施されるシンポジウムについて、シンポジウムのテーマの共同企画及び座長・演者の推薦依頼があったため、各理事から事前に頂戴した意見から、谷川原理事（がん領域）と東海林徹正会員（NST領域）に該当領域の取り纏めを依頼することが報告された。

以上をもって議事の全部の審議及び報告を終了したので、議長は17時に閉会を宣言し、解散した。